HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	砂糖輸入国におけるてん菜糖の供給不安定化メカニズム ： 2000年以降における日中の比較分析
Author(s)	李, 敖
Description	この博士論文の全文は利用可能日以降に公開されます。利用可能日以前の閲覧方法は https://www.lib.hokudai.ac.jp/dissertations/copy-guides/ をご参照ください。
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(農学)
Dissertation Number	甲第16770号
Issue Date	2026-03-25
DOI	https://doi.org/10.14943/doctoral.k16770
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/99615
Type	doctoral thesis
File Information	LI_Ao_review.pdf, 審査の要旨 https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学 位 論 文 審 査 の 要 旨

博士の専攻分野の名称　博 士（農学）　　氏名　　李　敖

審査担当者　主 査 教 授　坂 爪 浩 史
副 査 教 授　東 山　　寛
副 査 准教授　清水池 義 治
副 査 准教授　小 林 国 之（本学国際食資源学院）

学 位 論 文 題 名

砂糖輸入国におけるてん菜糖の供給不安定化メカニズム
－2000 年代以降における日中の比較分析－

本論文は 7 章からなり、図 36、表 27、文献 109 を含むページ数 112 の和文論文であり、別に参考論文２編が付されている。

本研究の課題は、2000 年代以降のてん菜糖業の市場構造の変化に着目し、異なる政策的枠組と砂糖の市場構造を有する日中両国のてん菜糖業の比較を通じて、砂糖輸入国における国産てん菜糖の供給不安定化のメカニズムを解明することである。

砂糖などの甘味資源作物は、その戦略的重要性から、多くの先進国でも強い政策的規制が維持されている分野だが、近年、その供給の不安定化がみられる。これまでの研究は、甘味資源作物政策の諸外国間での比較分析と、糖業の産業構造の分析とが、別々に行われてきたという限界があり、政策展開と糖業の市場構造との相互規定関係性という観点から甘味資源作物の原料不足問題が体系的に研究されてこなかった。

分析手法は、産業組織論のフレームワークを用いている。甘味資源作物政策をはじめとする基礎条件から砂糖・てん菜糖の市場構造、てん菜糖業者や生産者組織の市場行動を段階的に分析して、日本・中国間の比較分析を行い、供給不安定化のメカニズムの解明にアプローチしている。

第１章では、2000 年代以降、中国は国産・輸入糖間の競争を制度的に容認する方向へ転換してきたのに対し、日本は両者の棲み分けと直接支払い制度を中心とする規制の再構築を行なってきたことを明らかにした。

第２章では、日本と中国の砂糖市場の構造は国内産糖と輸入糖の競争面で異なり、中国は強い競合がみられる一方、日本は競争抑制的であるが、両国はいずれも政府の価格・数量調整を通じた統制的な市場構造から、輸入糖が国内産糖を圧迫する市場構造に転換したことを明らかにした。

第３章では、糖業者の 2000 年代以降の原料調達構造の転換に着目し、日本と中国はいずれも価格政策に基づく安定した原料調達構造から、競合作物価格と制度面の数量調整に干渉される不安定な原料調達構造に転換したことを解明した。制度転換の時期を境に両国に

おけるてん菜・てん菜糖の供給数量の変動係数を比較した結果、中国における原料供給の不安定化の度合いがより強いことが明らかとなった。

第４章では、原料調達構造の不安定化に対する中国の糖業者の市場行動に着目し、原料調達行動は生産者組織の介在しない形態である技術支援や自社栽培など、コストの上昇を伴う数量維持、販売行動は大口加工業者への優先供給という特徴のある点が明らかになった。

第５章では、日本のてん菜糖業者の原料調達行動は安定調達の必要性と買取価格の調整ができない矛盾のもとで展開され、てん菜の栽培面積減に対し、技術支援による生産性向上と農協との連携を通じた栽培維持という対応が糖業者によってとられ、大口加工業者への依存度上昇が進むことを明らかにした。

終章では、以上の内容を総括し、砂糖需要が縮小・停滞する場合に行われる政策的な数量調整に対して、中国の場合には糖業者は原料の安定確保を目的に価格調整を行い、糖業者による価格決定が制限される日本の場合には代替的に生産力の向上を図る原料調達行動を糖業者が行う結果、てん菜糖供給の不安定化が増幅されるメカニズムが存在することを明らかにした。

本研究の最大の学術的意義は、従来別個に扱われてきた甘味資源作物に関わる政策分析と糖業の産業構造分析とを、産業組織論の枠組みを用いて統合した点にある。日中両国の比較分析を通じ、需要停滞下での政策的な数量調整が、糖業者の特定の原料調達行動（中国の価格調整、日本の生産性向上策）を誘発し、逆説的に供給不安定化を増幅させるメカニズムを論理的に解明した。これは、政策展開と市場構造の相互規定関係を体系化したものであり、新規性のある学術的な貢献である。また、各国の甘味資源作物政策に関する政策的示唆は重要であり、社会的な貢献も高く評価できる。

よって、審査員一同は、李敖が博士（農学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認めた。